

臨床検査専門科目	臨地実習・セミナー					
		10単位	実験・実習	平成30年度	後期	3年次
臨床検査学科	必修					
科目名	臨地実習					
担当教員	◎小松方 中村彰宏	戸田好信 山本慶和	山西八郎	堀江修	近藤明	畑中徳子
目的	<p>1. 形態検査学 病理組織検査、細胞診検査、末梢血検査、末梢血・骨髓形態検査などの形態検査について、各検査の方法を理解し、組織や細胞の固定の仕方や各種の特殊染色技術を学ぶ。顕微鏡の操作法を理解し、鑑別技術を学ぶ。また各検査で診断が可能な疾患を把握し、その有用性と限界を学ぶ。検査所見の判読の仕方や、異常所見についても学ぶ。</p> <p>2. 生物化学分析学 一般検査の臨地実習において便検査では、潜血反応の原理や特徴を学ぶ。尿定性検査では、各測定項目の原理、誤差要因を理解した上で判定法を学ぶ。尿沈査鏡検では、標本の作成と鏡検法を学ぶ。 生化学検査の臨地実習においては、試薬の調製、分析法の理解、酵素活性の算出法を学ぶ。分析工程（検体前処理）、精度管理が一体であることを認識し、反応モニターによるデータの確認法を学ぶ。</p> <p>3. 病因・生体防御検査学 疾病の原因となる遺伝子変異による造血器細胞の異常、各種微生物による感染症、自己免疫疾患等の免疫機能異常などの検査法について理解および技術を学ぶ。腫瘍マーカー、ホルモン検査、感染症検査などの免疫学的検査法について理解および技術を学ぶ。血液型検査、輸血検査について理解および技術を学ぶ。これらの検査法について、患者材料を直接使用し検体採取から報告までの一連のプロセスおよび精度管理手法を学ぶ。症例検討会やカルテ検索等を通して診療の中における関連検査の位置づけを学ぶ。</p> <p>4. 生体機能検査学 循環器検査、画像検査（超音波検査・MRI検査）、呼吸機能検査、神経機能検査などの生理機能検査について、各検査の方法を理解し、技術を学ぶ。また各検査で診断が可能な疾患を把握し、その有用性と限界を学ぶ。検査データの判読の仕方や、異常所見について学ぶ。臨床現場での患者さんとの接遇および医療従事者としての考え方を学ぶ。</p> <p>5. 検査総合管理学 診察前検査や緊急検査などで必須となる検査データを、迅速、正確かつ確実に診療現場に届けるための工夫を知り、検査の入り口から出口までのデータ保証について学ぶ。またチーム医療を”検査部内からの医療スタッフへのアプローチ”および”検査部外に向いたアプローチ”の2方向を体験して学ぶ。全体を通して検査データを保証し、検査データを診療に活</p>					
目標						
他科目との関連						
評価方法	項目	評価の内容				評価の比率
	その他	所定の評価シート（実習習得事項、実習マナー、プレテスト、確認テスト、レポート、口頭試問）				1
評価基準	総合の得点100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可と評価し、合格とする。59点以下は不可と評価し、不合格とする。					

教科書	<ul style="list-style-type: none">・大学および天理よろづ相談所病院で共同作成した臨地実習ガイド・臨床検査専門科目および共通専門科目で用いた教科書
参考資料	
備考 (受講上注意、 事前学習等)	<ul style="list-style-type: none">・事前に臨時実習ガイドに目を通し、必要な準備を行うこと・実習場所、開始・終了時刻の確認、事前の打ち合わせ等を行うこと